

地域課題① 将来を見据えた持続可能な組織づくり

★具体的取組の例

- 事業（地域活動）の棚卸し、事業内容の見直し
- 役員の負担軽減に向けた組織体制・役員構成の見直しや運営マニュアルの作成
- 後継者や次代のリーダーの育成を意識した組織運営
- 女性の力やこれまでの経験を活かし、活躍の場を拡大
- 女性や現役世代が参加しやすい環境づくり
- （役員を輪番制としている場合）新しい課題や事業にも対応できる組織内の連携
- 会費のあり方の検討
- SNS の活用など新しい生活様式の導入
- 単位自治組織の連携・統合などの検討

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	107	57%
取り組まなかった	74	39%
無回答	8	4%

具体的取組とその効果など

【30 世帯以下】

- ・住民会や公民館の役職は1期1年で交代していたが、若年層が少ないことを考慮し、複数年継続する仕組みを導入した。現在のところ円滑に運営されている。（郊外地）
- ・役員の負担軽減を目的として、会議後の飲み会について見直し、廃止した。準備や後片づけの負担が軽減され、特に女性の方々から好評を得た。（郊外地）
- ・戸数や住民の減少に伴い、自治会と公民館の組織体制の統合や会計管理の在り方について検討した。会計を統合し、金銭管理の効率化が図られた。（郊外地）

【31～100 世帯】

- ・役員や隣組長の手当の見直しを行うとともに、町内会長に偏りがちな業務を役員全員で分担し、年間の事業を進められるようにした。（市街地）
- ・役員は三役以外、輪番制で運営している。また、子ども会などの役員も町内会役員に参画し、持続可能な体制を維持している。形式的な行事は極力削減し、時代に合わせて役割分担している。さらに、青年部を発展的に解消し、公民館運営委員として位置づけ、若い世代が参画しやすく、主体的に活動できる環境が整ってきている。（市街地）
- ・住民会の夏のビアガーデンは、住民会役員をはじめ、消防団員、小学校子ども会、中学校のPTAが中心となって開催した。食券の取扱い方法を変更することで運営の負担を軽減し、参加しやすい環境を整えた。（郊外地）
- ・自治会の役職を引き受けた人の自治会費を免除することにより、役員の就任がスムーズに進むようになった。（郊外地）
- ・従来の居住者と新規居住者の自治会年会費に大きな差があるため、平準化・公平化を目指して検討委員会を設置することとなった。（郊外地）
- ・戸数の減少に伴い町内会費も減少しているため、活動内容を見直した。（郊外地）
- ・町内では少子高齢化、定年延長、そして生活スタイルの変化に伴い、役員の担い手不足や会員減少が課題となり、活動を見直す必要がある。そのため、町内会運営の在り方について住民にアンケートを実施した。想像以上の回収率となり、貴重な意見や要望が寄せられ、関心の高さを感じた。この集計結果を参考にして、町内会運営を進めていきたいと考えている。（郊外地）
- ・総会で問題提起された組織体制の見直しについて、町内会と公民館の三役で協議した結果、公民館を町内会組織に統合することが決定した。総会において、役員数の段階的削減、会計の一本化、事業内容の見直しを提案し、承認された。役員数削減による担い手不足の緩和と、経費の削減が期待されている。（郊外地）

【101～300 世帯】

- ・毎月1回、町内会役員会を開催し、各役員の役割分担を明確にして、事業を実施した。役員各々が意識的に行動することで、運営の円滑化が図られた。(市街地)
- ・町内会の部のあり方について検討し、これまでの6部から4部へ統合することを決定した。次年度から新たな体制で活動を開始し、効率的な運営を図る。(市街地)
- ・各役員の業務の負担を軽減するため、役員同士の連絡手段としてSNSを活用した。これにより、町内会役員同士の報告や連絡、相談が常時可能となり、情報共有が円滑となった。予想以上の負担軽減に繋がった。(市街地)
- ・子ども会を中心に夏祭りを開催し、楽しい思い出づくりを通じて住み続けたいまちを目指した。子ども会の親たちも積極的にに関わり、地域への関心が高まった。(市街地)
- ・1人暮らしの高齢者が増加する中、防災や防犯への対策に力を入れ、安心安全な地域とするために、町内会の役員構成を見直し、若手や女性の登用を検討している。(市街地)
- ・少子高齢化が進む中で、行事の開催が困難となる状況を隣の自治会と相談し、祭りに隣の自治会の子どもたちから参加していただいた。町内の意識にも変化が現れ、協力して盛り上げようという気持ちを感じられた。(郊外地)

【301 世帯以上】

- ・町内会組織の核となる部と組について、規約を改定し、組長との綿密な連携役としてブロック長を設置することを定めた。この仕組みにより、事務の効率化が図られるとともに、会長に業務が集中する状況を解消する。(市街地)
- ・青年部を新設し、若手人材の確保に取り組んだ。(市街地)
- ・複数人で役割を担うことで、用事などで参加が難しい場合でも、全体または専門部単位でカバーし合える体制を整えた。さらに、60歳未満の現役世代の登用に挑戦した結果、役員25名のうち新たに6名の60歳未満の方が加わり、役員内での助け合いや協力がしやすい雰囲気生まれた。(市街地)
- ・町内会だよりを毎月から隔月発行にし、編集委員の負担軽減を図っている。回覧板の回覧回数を減らすため、急がない情報は少し遅れてもまとめて回覧した。(市街地)
- ・子どもから高齢者まで幅広い世代が参加する交流行事を実施し、会員同士の繋がりが深まった。世代交流グランドゴルフ大会には約80名が参加した。夏祭りでは盆踊りを開催し、多くの住民が参加することで地域の結びつきが深まった。(市街地)

地域課題② 活動の担い手となる人材の確保と育成

★具体的取組の例

- 若者が参加しやすい環境づくり
- 子どもから高齢者まで参加できる交流型事業の実施
- 子ども会や中高生、大学生、若い世代などが企画運営する事業の実施
- 単発的なスタッフ参加から、企画運営など継続的な参加に繋がるような、一過性に終わらない関わり方の検討
- 人材育成研修事業への参加
- 得意分野を活かした役割分担により、自分が必要とされている喜びや達成感を感じる仕掛けづくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	106	56%
取り組まなかった	76	40%
無回答	7	4%

具体的取組とその効果など

【30 世帯以下】

- ・事業を計画する際には、若い世代にも積極的に参加してもらい、事業運営をサポートしてもらった。

多様な視点や新たなアイデアが生まれ、今後の事業運営についても話し合えた。(郊外地)

- ・ 町内の花見やビアガーデンなどのイベントは、若い世代が中心となって企画、運営を行った。(郊外地)
- ・ 次期会長となる住民を副会長に任命し、今年 1 年かけて引継ぐことにした。これにより、スムーズな役職移行が可能となった。(郊外地)
- ・ 町内会の交流を活発にするため、新そばを食する会や芋煮会を実施した。多くの町民が参加し、交流が図られた。(郊外地)
- ・ 町内会のルールが明文化されていないため、若い世代から町内会をどのように運営すべきかわからないという不安の声が寄せられていた。そこで、町内会の運営方針を明確にした町内会会則を制定した。この取組みにより、若い世代にも町内会の仕組みを理解してもらいやすくなり、運営に対する不安の軽減が図られた。(郊外地)

【31～100 世帯】

- ・ 役員の半数を女性で構成し、元気に町内会事業をまとめてもらっている。女性の視点が加わったことで物事がスムーズに進んだ。(市街地)
- ・ 夏祭りに青年部メンバーから積極的に参加してもらったことで、にぎわいが創出された。(市街地)
- ・ より多くの住民から町内会活動に関わってもらうために、女性の参加も働きかけたところ、女性 1 名が役員になってくれた。(市街地)
- ・ 最若手に会計担当を担ってもらい、1 年間かけてこれまで通りの実務を行ってもらった。EXCEL を使った会計処理やキャッシュレスの活用など、会計業務の改善を期待している。(市街地)
- ・ 住民相互の親睦を深めるため、各種交流会を開催した。講演会とたら汁会は数年ぶりとなり、多くの住民が参加した。(郊外地)
- ・ 小学生と保育園児の保護者から公民館事業に参加してもらい、連帯感を深め、人材の確保と育成に繋げた。(郊外地)

【101～300 世帯】

- ・ 子ども育成会と夏祭り・新年会などの行事で連携し、世代間交流が図れる内容づくりを進めた。町内のコミュニケーションづくりに役立っている。(市街地)
- ・ 一部事業の運営主体を 30 代・40 代に依頼し、若返りを図った。事業運営の担い手が確保され、継続性が高まった。(市街地)
- ・ 活動の担い手となる若い世代に町内会行事への声掛けを行い、料理教室を開催した。若い世代から喜ばれた。(市街地)
- ・ 吹奏楽の研修会と芋煮会（秋祭り）を組み合わせて開催した。子どもから高齢者まで参加できるイベントとなった。(郊外地)
- ・ 育成会、集落役員、婦人部などの幅広い年代が学校に集まり、情報共有した。それぞれの事業活動について意見が出され、協力体制ができ、会員の励みに繋がった。(郊外地)

【301 世帯以上】

- ・ 子ども育成会を含め、団体交流会を開催した。イベントに若い世代の参加が増えた。(市街地)
- ・ 夏祭りが中止となったため、児童部と青年体育部（30～50 代）が企画し、秋祭りを開催した。(市街地)
- ・ 大雨のため、夏祭りが中止となったことから、厚生部を中心に子ども向けの行事としてバーベキューを行った。親子で参加し、盛り上がりを見せた。特に若い世代の町内会活動への理解と参加が促された。(市街地)

地域課題③ 情報発信と会員確保

★具体的取組の例

- 住民自治組織の存在意義や役割、活動などを広報紙のほか、ホームページや SNS を併用して発信
- 転居者や未加入者、アパート家主などへの加入勧誘

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	106	56%
取り組まなかった	76	40%
無回答	7	4%

具体的取組とその効果など

【30 世帯以下】

- ・各家庭から少なくとも 1 人が参加する形で、町内会のグループ LINE を作った。特に鳥獣被害に関する情報を効果的に伝達できた。(郊外地)
- ・町内会用の LINE オープンチャットを設定し、行事や集会の開催連絡などに活用した。町内 20 戸中 17 戸、20 名が登録し、簡易な通知は LINE で行った。高齢世帯で LINE オープンチャットを利用できない家庭には、引き続き紙で開催案内を配布した。紙のみの配布と比較すると、周知時間が短縮できた。連絡以外では、運動会や敬老会、レクリエーション大会などの様子を写真で送り、参加できなかった会員にも、行事の雰囲気伝えることができた。(郊外地)
- ・町だよりを作成し、令和 6 年度は 8 号まで発行した。オレオレ詐欺について注意喚起したことで、注目された。(郊外地)

【31～100 世帯】

- ・空き家からも町内会費を半額いただいております、家や木の現況把握を行った。(市街地)
- ・防災や防犯に関するチラシなどを、定期的に全戸配布している。いざという時に備え、防災や防犯の意識の向上に努めている。(郊外地)
- ・集落の広報誌を発行するとともに、自治振興会の活動と合わせ、SNS で地域情報を発信した。行事への参加ができない住民にも、地域の動きについて周知が図られた。(郊外地)

【101～300 世帯】

- ・役員間の連絡方法を LINE に変更した。役員間の連絡がスムーズに行われるようになった。(市街地)
- ・地区内への転居世帯と事業所に対する入会勧奨を実施した。正会員 1 世帯、賛助会員 1 事業所の加入に至った。(市街地)

【301 世帯以上】

- ・町内会厚生部、子ども会は LINE による情報共有を行った。公園清掃、資源回収などへの子どもたちとその親の参加が促され、町内会活動への理解が得られた。(市街地)
- ・新加入者には当年度の議案書、役員名簿、ごみ出し指定日、分別一覧を渡し、町内会に親近感を持っていただいている。(市街地)
- ・町内会内のホームページを作成し、情報発信を開始した。閲覧者が徐々に増えてきた。(市街地)

地域課題④ 地域課題の解決に向けた取組の実施

★具体的取組の例

- 課題の把握と共有のための、気軽に話し合える雰囲気や場づくり
- 有償ボランティアの検討など、課題解決に取り組むための新しい事業などの検討
- 関係組織・団体との連携や広域コミュニティ組織との役割分担など課題解決に取り組むための仕組みづくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	101	53%
取り組まなかった	74	39%
無回答	14	8%

具体的取組とその効果など

【30 世帯以下】

- ・収集されなかったごみは、以前は自治会長が分別していたが、個人の責任のもと、各自で回収し分別することとした。収集されないごみは減った。(郊外地)
- ・住民の健康増進や交流促進を目的に、お茶のみサロンを設け、その実施回数の増加にも取り組んだ。(郊外地)
- ・単身高齢世帯への個別相談を行い、草刈りなどの支援を行った。また、留守宅の見守り、空き家に関する問合せ対応を行った。単身高齢世帯が増えつつあり、その方々を見守るようになった。(郊外地)

【31～100 世帯】

- ・ボランティアを募り、1 人暮らし高齢者宅のごみ出しを支援した。(市街地)
- ・少子高齢化が進む中、お茶のみサロンや百歳体操の活動を通じて交流を図り、抱える課題を明らかにした。(郊外地)
- ・住民総出で 2 キロにも及ぶ海岸に寄せられる漂流ゴミの収集処理にあたった。海岸のみならず、地域の環境美化に関心をもってもらうことに繋がっている。(郊外地)
- ・多くの住民から芋煮会に参加いただき、情報交換の場となった。地域課題の把握に繋がった。(郊外地)
- ・町内を 4 班に分け、組長制度を設け、それぞれの班の公民館掃除当番の時に要望などを出してもらい、地域課題の把握に努めた。(郊外地)

【101～300 世帯】

- ・ごみ出しのルール違反に対し、役員会で検討を行い、市の担当課と連携して張り紙の掲示や防犯カメラ（ダミー）の設置など、住民に見られている意識を促す取組みを実施した。少しずつルールが守られるようになり、ごみ出しに関する苦情は寄せられなくなった。(市街地)
- ・高齢者世帯の除雪支援を目的に、支援を受けたい希望者と支援ボランティアを募集し、役員とともに除雪隊を結成した。(市街地)

【301 世帯以上】

- ・2 年前に老人クラブを解散したことにより、高齢者の元気が低下した。将来を見据えて 60～70 歳代を中心に役員を割り当て、健康維持を目的とした体操サロンを立ち上げた（6 年度 8 回実施）。その結果、60～70 歳代の住民に日常生活の充実感が生まれ、さらに 80 歳代の住民の参加も促進された。(市街地)
- ・役員、隣組長合同会議を開催し、課題の洗い出しを行った。課題は共有できたが、町内会の目的や設立の意義など、原点から理解してもらう必要性を感じた。(市街地)

地域課題⑤ 災害に備えたコミュニティづくり

★具体的取組の例

- 会員情報の把握と顔の見える隣組の関係性の構築
- 災害時に、声掛けや安否確認、避難誘導を行うことができる体制づくり
- 市の災害時避難行動要支援者支援制度に基づき、名簿提供に同意した要支援者の個別避難計画を作成
- 空き家情報の把握と市への情報提供

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	130	68%
取り組まなかった	54	28%
無回答	5	4%

具体的取組とその効果など

【30 世帯以下】

- ・公民館が避難場所となることを想定し、防災毛布を 10 組購入し、配備した。(郊外地)
- ・住民会役員が主体となり、災害時の避難場所の確認と高齢者や 1 人暮らし、避難困難者の把握を行った。災害時の対応について共有できた。(郊外地)
- ・自主防災役員会の開催や防災訓練を実施した。心肺蘇生や救急対応の知識を身につけることができ、住民の防災意識が向上した。(郊外地)
- ・地区主催の防災訓練には、ほぼ全住民が参加し、避難や情報収集の方法について訓練を行った。有事の際に自身の身を守る意識づけができた。(郊外地)
- ・自主防災事業として予算化されていたものの手つかずであった、ヘルメット用ヘッドライトやランタンなどの防災用品を購入した。来年度以降に購入する防災用品についても様々な意見を住民からいただいた。(郊外地)
- ・防災（世帯）台帳の整備を行った。作成にあたり、常会で運用の意義や目的、活用方法の説明を受けた。災害時のサポートが必要な町民やその連絡先が明確になった。(郊外地)

【31～100 世帯】

- ・防災団員の研修会を実施し、要支援者の避難誘導における課題を話し合い、避難所開設にかかる課題などについて意見交換した。町内会を担う次の世代である防災団員と懇親を深め、人材育成にも繋がるようにした。(市街地)
- ・以前に町内会で作成した防災計画書は年数が経過していたため、更新した。災害に対する意識づけに繋がった。(市街地)
- ・災害発生時に何をすればよいかまとめた。リーフレットを作成し、全戸回覧した。(市街地)
- ・自治会独自に防災訓練を実施するとともに、地区防災計画の策定に向けた検討を行った。(郊外地)
- ・鶴岡市の防災安全課職員を講師に招き、土砂災害防災講座を開催した。地震、豪雨などによる自然災害や鳥獣被害に備えた学習を今後も継続し、住民の防災意識をさらに高めていきたい。(郊外地)
- ・収穫感謝祭において消防署職員を講師に防災講話と消火訓練を行った。防災意識が高まった。(郊外地)
- ・地域の防災対策として、自主防災会の活動で避難路の整備を行った。また、防災無線機器が適正に保たれているか確認し、緊急時の対応に備えている。地域住民が一丸となって参加し、災害時に円滑な対応ができるよう備えた。(郊外地)

【101～300 世帯】

- ・自主防災計画にある防災部女性班の研修会を実施し、安否確認と避難所運営に理解と協力を求めた。(郊外地)
- ・振興会の依頼で、当町の災害時の助け合いについて発表した。町内の防災対応、災害弱者対応について共通認識が図られた。(市街地)

- ・世帯（家族）カードを見直し、家族情報、健康状態（歩行・視覚）、緊急連絡先の他に災害時支援の希望、声掛け協力可否を追加し、状況の把握に努めた。（市街地）
- ・毎年災害時の要支援者に関する希望調査をしているほか、防災だよりを年２回発行した。自主防災総会、防災研修会、防災訓練は、年１回ずつ実施しており、防災に対するコミュニティ意識の高揚を図っている。住民の関心が高まっている感じがある。（市街地）
- ・組単位でのコミュニティを重視し、ご近所同士で支え合える独自の体制として「おたすけ会員」「おねがい会員」の制度を整えた。防災台帳と組み合わせ、大雨や大雪などの際に対応する「おねがい会員」について毎年アンケート調査を行い、要支援者を把握した。また、「おたすけ会員」の専用LINE グループを作成し、会員の６０％が参加している。災害時の状況指示などを「おたすけ会員」で共有できるようにしている。（市街地）
- ・災害時の一時の避難所として、町内にあるホテルと使用協定を締結した。（市街地）
- ・隣組総会の開催を呼び掛け、いざという場合に隣近所が声を掛けあえるような関係づくりをお願いしてきた。また、住民参加型の避難訓練を実施し、避難放送を通じて自身の避難行動を考える機会を提供した。自分事としてとらえる雰囲気が高まっていると感じる。（郊外地）
- ・水害時の市の指定避難所である小学校と対象地域である５町内で、現場を確認しながら情報交換会を行うことができた。防災に関して一歩前進し、交換された情報を各自が持ち帰り、町内の防災活動に落とし込みたい。（市街地）

【301 世帯以上】

- ・総会議案書の中に保存版として地域防災計画を綴りこんだ。また、世帯主名、組の区割、避難場所、消火栓、ごみステーションの位置などを掲載した町の防災マップを作成した。（市街地）
- ・防災訓練で有事の際に役立たない無駄なこともやっていたため、内容の一部を見直して実施した。（市街地）
- ・隣組長に限定し、避難訓練と水害を想定した土嚢積みの訓練を行った。令和６年度から段階的に飲料水の備蓄を行うこととし、120本の飲料水（2L）を備蓄した。避難訓練時に飲料水の備蓄を広報したことで、住民の防災意識の向上に繋がった。（市街地）
- ・アンケート調査を行い、町で備えておくべき防災備品を揃えた。発電機や照明器具を購入した。（市街地）

地域課題⑥ 「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり

★具体的取組の例

- 子どもの頃から地域の自然や歴史、文化、伝統、産業等への理解を促すような機会づくり
- 開催日や運営形態などを工夫し、若い人材の確保や大勢が参加しやすい仕掛けづくり
- 子どもから高齢者まで世代を超えた繋がり創出

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	81	43%
取り組まなかった	96	50%
無回答	12	7%

具体的取組とその効果など

【30 世帯以下】

- ・公民館の若手役員や高校生が企画し、毎年お盆に合わせて夏祭りを行っている。お盆の帰省で町内に戻られた方にも好評で、夏祭りを楽しみにしている人がいる。（郊外地）
- ・２年前にベルギー人が移住してきたため町内会の協力体制を話し合った。日本語は若干しか話せないものの、町内の集会に参加してくれるようになった。（郊外地）
- ・「山里あるき」のコースにもなっている散策道沿いで、上郷小学校６年生が課外活動として毎年桜の植樹を行っている。植樹をした子どもたちが成人して桜を観に訪れている。（郊外地）

【31～100 世帯】

- ・子ども会を主体とした資源回収活動を通じ、各家庭への声掛けを行いながら安否確認を進めた。(市街地)
- ・地域の伝統的な祭りにおいて、町名の由来となっている民話を要約したチラシを会員に配布し、歴史を次世代に引継ぐ取組みをした。(市街地)
- ・小学生がいる親子が中心となり、水辺の生き物調査を行った。どんな生物がいるか観察することで環境の大切さを再認識する良い機会となった。(市街地)
- ・5年ぶりに夏祭りを開催し、老若男女が楽しめる出店やゲームなどの余興を行った。多くの家族、子どもが集まり、世代交流が図られた。(郊外地)
- ・伝統行事である春・秋の祭典の当番を一部で輪番制としている。また、納涼大会の企画や実施は、PTA 関係者を中心に行ったところ、子どもの参加が目立った。若い世代や担当隣組以外の住民も協力することで、盛り上がるイベントとなっている。(郊外地)

【101～300 世帯】

- ・コロナ禍で中断した夏祭りや敬老祝賀会の行事を再開し、楽しく安心して暮らせるまちづくりを実践している。参加者数がコロナ禍前に戻りつつあり、町内の交流の場として大いに役立っている。(市街地)
- ・子ども会の行事については、キャンプや餅つきなど、思い出に残るような企画を実施している。楽しく喜ばれる事業を実施することで、「この町に住んで良かった、来年も楽しみ」と思ってもらえることを信じて取り組んでいる。(市街地)
- ・東北芸術工科大学と住民会有志がコラボした「未来を語る会」で、樹木園と神社境内の整備を行った。(郊外地)
- ・主婦会を中心に、百歳体操とボッチャが普及した。女性同士の交流が図られた。(郊外地)
- ・高齢者を中心に健康体操や軽スポーツへの取組みを行った。地域の特色や歴史的な伝統行事があるわけでもないため、人の繋がりで地域の良さを生み出していきたいと考えている。(郊外地)

【301 世帯以上】

- ・新年講習会において、地元講師を呼び、地元の産業、歴史、文化に関する講演を行っている。地域の魅力を再確認し、交流する場となっている。(市街地)
- ・子どもたちの楽しい思い出づくりとなるよう、若手を中心とした夏祭りや子ども会へ助成金を提供している。また、大人の行事に参加した子どもたちへのプレゼントを実施し、町内で盛り上がる機会を創出している。(市街地)
- ・安全、安心なまちづくり、ふれあいのあるまちづくり、きれいなまちづくりを町営運営の基本としている。福祉部では 65 歳以上の高齢者宅への定期訪問を行い、また、高齢者世帯の環境整備を行った。(市街地)

その他／ 地域で課題になっていることなど

【30 世帯以下】

- ・働き方の多様化により、役員の確保が難しい。(郊外地)
- ・少子高齢化による担い手不足から、自治会などの様々な役員を重複して担い、役員任期も長期化傾向にある。(郊外地)
- ・単身高齢世帯が増え、資源回収やごみ出しが困難になる家庭がみられた。(郊外地)
- ・単身高齢世帯などが今後更に増加すると予測され、町内会費の人数割りなど公平性のある徴収方法の検討が必要である。(郊外地)

【31～100 世帯】

- ・役員の担い手がいなくて困っている。同じ人が長く役員を続けることになり、役員の高齢化に繋がっている。(市街地)
- ・次の世代の担い手を掘り起こすための有効な手立てが見つからず、苦慮している。(市街地)
- ・近所にあったスーパーマーケットが閉店したため、高齢者世帯の買い物が困難となった。(郊外地)
- ・子育て世代は、仕事のほかに PTA 活動や部活の送迎などがあり、土日が無い状態となっている。そのような状況の中、地域のコミュニティに参画する環境づくりは、かなりハードルが高い。結局一部の人に負担が集中している。(郊外地)
- ・単身高齢世帯について、輪番である役員ができない状況が見受けられるようになった。町内会活動や神社の祭典など、これまで行ってきた地域活動の存続が困難な状況になってきた。(郊外地)
- ・鳥獣被害が多くなり、農作業ができなくなった。(郊外地)

【101～300 世帯】

- ・大木の放置が問題となっている空き家があり、隣家を押しつぶしそうな杉や落下すると危険な太い枯れ枝がある。持ち主に町内会環境課から連絡したが、対応してもらえなかった。(市街地)
- ・自治会を退会したいという申入れが増えている。(郊外地)

【301 世帯以上】

- ・集合住宅に住んでいる会員の町内会事業への参加率が低い。(市街地)
- ・町内会の老人クラブが解散したことから、高齢者の活動の場や居場所がなくなり、復活を図る必要がある。(市街地)
- ・30～40 代は、町内会の厚生部や子ども会などで活躍しているが、50～60 代の住民参加が得られず、町内会活動への勧誘が必要である。(市街地)

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

【30 世帯以下】

- ・デジタル（LINE など）を活用した迅速な情報共有を図りたい。役員間でデジタル（LINE など）活用し始めているが、町内会全体に拡大したい。(郊外地)

【31～100 世帯】

- ・町内にある寺の住職の講話を聴き、花を愛で、町民の繋がりを深めたい。(市街地)
- ・空き家や空き地の現状調査と、防災マップづくりを継続したい。(郊外地)
- ・地区行事や祭りの運営が担い手不足で難しく、他地区と合同開催も含め、検討している。(郊外地)

【101～300 世帯】

- ・防災や避難対策の住民台帳の作成やアンケート調査を実施したい。(市街地)
- ・高齢者を加えた避難訓練の実施。(市街地)
- ・高齢者、障害者宅のごみ出し、除雪などの手助け。(市街地)
- ・少子高齢化の進展により、現行の輪番では隣組長制度は立ち行かなくなる。町内を数ブロックに分け、隣組長的職務を担う役職を配置したい。(市街地)

【301 世帯以上】

- ・住民の関心が多様化していることを踏まえ、昨年企画した事業を修正し、交流事業に関心のある人を募り、企画し、取り組んでいきたい。(市街地)
- ・役員が交代した際にスムーズに移行できるよう、各種業務をまとめておきたい。(市街地)

- ・地域貢献券のようなもの（ポイントなど）を発行したい。（市街地）

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

【30 世帯以下】

- ・地域福祉推進の観点から守秘義務の取扱いについて、コミュニティ関係者を対象とした研修会を開催することもあると思う。（郊外地）
- ・上郷地区自治振興会の多様な企画で、大勢の地区住民が集う活気ある場面が増えた。同様に集落単位で協力、参加を心掛けたい。（郊外地）

【31～100 世帯】

- ・少子高齢化に伴い、イベントへの参加者が激減した。地域全体でのイベントや各種事業の縮小を検討していきたい。（市街地）
- ・町内会長同士の情報交換の機会を増やしていくことが大事だと思う。（市街地）
- ・少子高齢化による人口減少が進み、空き家が増加している。町内会としては寂しい感じとなっている。（市街地）

【101～300 世帯】

- ・新しい町であるが故に、人の繋がりが薄く、連帯感がない。円滑でまとまりのある町内にするために、どう運営していくかを考えたい。（市街地）
- ・個人情報という言葉が蔓延して、連帯感が薄れている。表札をつけない家、取り外す家が目立っている。（市街地）
- ・1人暮らしの高齢者の除雪に関し、除雪ボランティアを計画したが、ボランティアが集まらず、結局隣近所で助け合っていくことになった。（市街地）

【301 世帯以上】

- ・市や自治振興会、社会福祉協議会から、各種協議会の評議員などの選出を依頼されるが、数が多く入選に苦労している。もう少しスリム化できないものか。（市街地）
- ・個人の善意（ボランティア）を期待するのは、限界にきている。（市街地）

地域課題① 時代の変化に適応する運営や事業展開と持続可能な組織づくり**★具体的取組の例**

- 事業の棚卸し、事業内容の見直し
- 学区・地区の現状に応じ、各種団体等との連携強化
- 事務局職員や地域活動の担い手が研修会へ参加し、地域活動を支え、繋ぐコーディネーション力などのスキルの向上
- 地域を引っ張るリーダーや中核的グループなど多様な人材の発掘、集結及び育成
- 広報紙のほか、ホームページや SNS を併用した情報発信・情報収集の強化
- SNS の活用など新しい生活様式の導入

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	20	95%
取り組まなかった	1	5%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・文化祭をリニューアルし、子ども縁日や子ども食堂、高校生によるステージ発表を行ったほか、冬のレクリエーションに紙ヒコーキ飛ばしを取り入れるなど、これまでにない新しい事業展開が好評を得た。これらの取組みにより、小学生やその保護者、高校生など、これまでコミュニティセンターを訪れることが少なかった世代の方々が足を運んでくれるようになった。（第三）
- ・令和 6 年度からコミュニティセンター内に設置した高校生の学習スペース「すたでい Box」が定着してきた。致道館高校地域活性化ゼミより、開館日を校内 SNS で周知してもらった。（第三）
- ・新規サークルが住民主導で 1 サークル、振興会側主導で 2 サークル立ち上がった。この 3 サークルが、継続的な活動ができるように支援していきたい。また、次年度も新たなサークルの立ち上げを目指し、学区住民の興味・関心を引くような講座などの開催を検討する。（第四）
- ・新規に競技ドローンやレゴブロックロボットのプログラミングを事業に取り入れ、児童の興味・関心の幅を広げた。（第六）
- ・美味しい湯田川孟宗を未来に繋げることを目的に、竹林保全の後継者育成と湯田川孟宗のすばらしさを多くの人に知ってもらうためのプロジェクトを立ち上げた。地域内で孟宗と竹林の大切さについて再認識するとともに、竹林保全の新たな後継者が誕生した。（湯田川）
- ・定年延長に伴い働く高齢者が増加し、老人クラブがない自治会も出てきた。地区の老人クラブについては運営を変更し、年会費を徴収せずに振興会の事業として展開するようにした。お茶のみサロンなどの代表者を介して広く事業への参加を呼びかけ、地域の高齢者がより気軽に関わられるような仕組みづくりが進められた。（大泉）
- ・LINE で会議やイベントの案内したところ、出席率が増加したほか、若い世代の参加も多くなった。（小堅）
- ・関係人口の増加を目的に、地区外との交流を通じて加茂の魅力を周知するための企画を実施した。10 月のまち歩きイベントでは、北前船による交流があった中山町とのコラボ企画として、芋煮の食べ比べを行った。鶴岡市民はもちろん、内陸地域の方々にも加茂地区の魅力を伝えることができ、今後のさらなる交流へと繋がった。（加茂）
- ・自治会役員、福祉、防災、地域ビジョンなど各担当部門で LINE グループをつくり、情報の発信・共有、連絡などのペーパーレス化と迅速化を図った。また、災害時の緊急連絡などにも活用した。（由良）

その他、今後取り組みたいことなど

- ・海外の人が気軽に加茂を訪れてくれるような環境づくりに取り組みたい。(加茂)
- ・外国人や大山地区外からの転入者に向けて、会費やごみの出しの仕方などが記載された自治会・34町内会ガイドを多言語で発行し、地域コミュニティ組織への加入の意味を理解してもらう。(大山)

地域課題② 「地域ビジョン」策定など地域課題解決に向けた取組の強化

★具体的取組の例

- 地域の現状と課題や魅力、価値を共有するワークショップの実施
- 有償ボランティアの検討など、課題解決に取り組むための新しい事業の検討
- 課題解決に取り組むための仕組みづくり（関係組織・団体との連携や組織体制の見直しなど）
- 地域共生社会の実現に向けた「地域支え合いプラン」の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	19	90%
取り組まなかった	2	10%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・地域ビジョンの周知と達成状況の把握を行い、次年度の活動計画に反映していきたい。取組みの重点や更新した地域ビジョンについては、毎年開催される評議員会で提示し、町内会の代表者に確認してもらっている。さらに、全戸配布のコミュニティだよりに掲載し、学区全体に広報している。(第六)
- ・「地域支え合いプラン」に基づき、「ほっとカフェ」と「地域ケアネットワーク会議」を開催した。「ほっとカフェ」を住民会への出張で行うことにより相談できる環境づくりができ、「地域ケアネットワーク会議」で介護保険について学び、福祉関係の情報共有ができた。(斎)
- ・認知症予防を目的に、昔の遊びや現代の遊び（eスポーツ）を楽しみながら行う脳活サークル「令和のてらこや」を発足した。当初は6名でスタートしたが、直近では参加者が20名に増え、地域に溶け込んだ活動となっている。(湯田川)
- ・地域ビジョンの第2期がスタートし、8月に新ビジョン発表会を行った。第1期の地域ビジョンは半分以上が実現し、地域づくりに成果があったことを実感できたことから、第2期の地域ビジョンについても住民の関心が高まった。(加茂)
- ・地域活性化のため、「上郷みらいづくりワークショップ」を行い、小学生から高齢者まで集えるプロジェクトを選定した。プロジェクトは「G0! G0! かみごうプロジェクト」と命名し、DIY・マルシェ・eスポーツのプロジェクトを立ち上げ、大勢の住民の参加に繋がった。(上郷)
- ・地域ビジョンに基づき、防災の強化、関係人口の創出、地域理解の促進に重点を置いた。研修会の実施や酒田市日向地区など他地域との交流を進めた。(三瀬)
- ・世代間交流の促進と市街地との学習環境格差の是正を目的に、中高生向けの勉強室を拡充し、交流スペースのほかに会議室を提供した。その結果、中高生の来館が増加した。(大山)
- ・地域カルテを作成した。今後、活用について検討していく。(大山)
- ・地域ビジョンに基づき、「住民・地域全員がインフルエンサー」をテーマにしたマルシェなどを実施した。プロジェクションマッピングの投影やキッチンカーの出店など多彩な企画により、盛り上が

りを見せた。また、スマホ教室を開催し、地域の高齢者が日頃悩んでいる操作などを学ぶことができた。（由良）

- ・顔の見える関係づくり、少子高齢化やコロナ禍で停滞した地域活動を強化することを目的に、「西郷の未来を考えるネットワーク交流会」をプレ開催した。様々な意見の集約ができたことで地域づくりの構想が見え、若干の前進と考えている。（西郷）

その他、今後取り組みたいことなど

- ・地域課題となっている町内会やコミ協の担い手不足の対策として、次代を担う若い世代を巻き込むための事業を計画したい。この取組みを通じて、多くの住民が交流できる場を築き、そこから次世代の協力者が生まれることを期待している。（第三）

地域課題③ コミュニティ防災のまちづくり

★具体的取組の例

- 被害情報の収集・伝達と避難所運営などを担う自主防災体制の確立
- 安全・安心、防災など共通課題をきっかけとした広域コミュニティ組織の連携

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	20	95%
取り組まなかった	1	5%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・地震・風水害に備えたポケット版しおりを作成し、学区総合訓練で参加者に配布して危機管理意識の高揚に努めた。（第一）
- ・鶴岡災害ボランティアネットワークと連携し、避難所運営を学ぶ防災研修会を実施した。研修会では、HUG（避難所運営ゲーム）を行い、とても有意義な研修となった。（第二）
- ・毎月、インバーター型発電機とバルーン型投光器の操作訓練（点検）を町内会ごとにローテーションを組み、実施した。多くの住民が機器の適切な使用方法を習得できた。（第三）
- ・各町内会から町内会長や防災担当者が2名以上参加し、心肺蘇生、応急処置・手当、簡易搬送、水消火器訓練を実施した。参加者は学んだ内容を各町内会に持ち帰り、町内会ごとに防災訓練を実施することで、防災の重要性への意識がより高まった。（第五）
- ・平成29年に町内会ごとの防災マップを作成したが、更新していない町内会もあるため、自主防災部会でマップ更新に関する研修会を企画した。また、医療従事者の居住状況や各家庭の防災グッズの保有状況を町内会ごとに共有し、有事の際に協力しながら避難生活を送れるよう準備していきたい。（第六）
- ・能登半島沖地震で発生したトイレや寒さの課題を受け、災害時備蓄品として段ボール簡易トイレやストーブ、アルミロールマット、毛布、段ボール簡易ベッドの確保を進めた。これらの備蓄品を地域防災訓練時に住民へ紹介し、防災に対する意識向上と災害時の安心感の確保に繋がった。（湯田川）
- ・各自治会でも防災訓練を実施しているが、振興会事業として、各自治会持ち回りで防災訓練を実施した。多くの住民が参加することで、防災意識の向上と地域の連携強化に繋がった。（上郷）
- ・防災研修で、コミュニケーションの活発な地域ほど地域力や防災力の向上に繋がることを学んだ。この学びを共有し、今後も継続的な取組みを図ることで、地域全体の結束を強めていきたい。（三瀬）

- ・自治振興会として初めて防災予算を組み入れ、一次避難場所への支援として水と非常食を購入・配備した。さらに、住民の防災意識を高めるため、防災講演会を開催した。これまで一次避難場所への支援がなかったこともあり、住民の自助・共助の意識が高まった。（加茂）

その他、今後取り組みたいことなど

- ・「有害鳥獣被害対策報償金制度」を令和7年度から設ける計画がある。（田川）

地域課題④ 単位自治組織の機能補完

★具体的取組の例

- 単位自治組織と広域コミュニティ組織の機能補完・役割分担などの検討
- 単位自治組織が行う諸事業へのサポート

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	13	62%
取り組まなかった	8	38%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・定期的な自治会長会で、敬老会の持ち方について情報交換をした。これにより、敬老会の実施方法の改善を図った自治会があった。（大泉）
- ・地区にある4つの自主防災会は、普段それぞれで活動をしているが、上部組織である防災組織連絡協議会で備蓄管理に関する取組みや講演会を実施し、地域全体での防災強化を図った。合同事業により、自主防災会間で情報共有が図られた。（加茂）

地域課題⑤ 地域資源を活かしたコミュニティビジネスの検討

★具体的取組の例

- コミュニティビジネスの取組に向けた検討
- 事業を通じて自分が必要とされている喜びや達成感・生きがいを感じる仕掛けづくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	14	67%
取り組まなかった	7	33%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・美味しい湯田川孟宗を未来に繋げる事業において、住民が竹林保全、孟宗掘り、孟宗料理、竹細工など得意とする分野で活躍できる仕掛けができた。地域貢献の幅が広がり、地域コミュニティの強化に繋がっている。今後、ビジネスとして軌道に乗るように検討していく。（湯田川）
- ・森林による温室効果ガスの削減や吸収量を企業に販売するJ-クレジットの創出に向け、コンサルタントとやり取りを行った。クレジットで得た収益を森林整備や林業の担い手の確保、地元木材のPRに充てる方向で検討していく。（三瀬）
- ・市有施設を借用し、自治会活性化委員会（自治会も構成団体）が運営主体となり、釣堀やカフェなどの運営を行っている。交流人口の拡大や雇用確保に繋げることができた。（由良）
- ・まち歩きガイド事業では、350名の方が加茂地区を訪れたほか、旅行会社の旅行ツアーにも組み込ん

でくれるようになった。加茂の海に親しむ事業では、地区外の子どもたちも多く参加し、地域の魅力を発信する機会となった。（加茂）

地域課題⑥ 「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり

★具体的取組の例

- 学校と地域が連携し、地域の自然や歴史、文化、伝統、産業などへの理解を促すような機会づくり
- 放課後子ども教室などを活用した、子どもたちの郷土愛を育む地域教育活動の実践
- 地域と学校の連携・協働によるコミュニティスクールの導入と地域学校協働活動の推進
- 小学校が統廃合した地区における交流機会の創出

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	20	95%
取り組まなかった	1	5%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・世代間交流、郷土愛を育む機会として、小中学生対象の保育補助体験ボランティアを行った。受け入れ定員を上回る多くの参加希望を得た。（第一）
- ・毎月発行しているコミセンニュース（全戸配布）に、各町の歴史や文化財などを紹介する「わが町 history」と題するコーナーを設けている。各町内会から寄稿された歴史や文化財、祭りなどの情報を写真付きで掲載し、地域の魅力を発信した。学区民からも好評で、各町のことを知る良い機会となっている。（第二）
- ・コミセン便りなどを利用し、朝陽第四小学校、鶴岡第四中学校、鶴岡高等養護学校の児童・生徒の活動報告を行った。また、コミセン祭りでは夏休みの作品や書初め展示、プレゼン発表などにより地域住民と交流し、活動の成果を見てもらった。児童や生徒が地域への愛着を深める機会となった。（第四）
- ・みどり幼稚園の園児、朝陽第六小学校の児童、鶴岡中央高等学校福祉系列の生徒がネットワーク事業に参加してくれている。子どもたちには地域に対する愛着が生まれ、高齢者には活力を与えている。（第六）
- ・成人講座でだがしや楽校を実施し、小学生と高齢者が参加した。昔の遊びを通して世代を超えた交流が生まれた。（斎）
- ・中学生に地区運動会運営を手伝ってもらうことで、自分たちが地域に必要とされていることを実感してもらえた。この経験を通じて、地域の中で自分たちが活動できる場所があることを再認識してもらえた。（湯田川）
- ・田川保育園の協力により、毎週水曜日に放課後子ども教室を行っている。地元スタッフが様々なプログラムを通して、小学生が安心して過ごせる居場所づくりに取り組んでいる。子どもたちと地元スタッフの関わり合いが強くなっている。また、子どもたちの成長が感じられる。（田川）
- ・毎年各自治会の文化財巡りを計画し、ウォーキングを含めた行事に取り組んだ。文化財愛護会より横光利一文学碑や楮山分有記念碑などの説明を受け、地域の文化財に対して新たな認識を持つ機会となった。（上郷）
- ・10代・20代を中心に若いメンバーを募り、敬老会や新年会などの地域行事で踊り（南中ソーラン）を披露した。地域活動に参加する機会がなかった若者が、踊りをきっかけに行事や役員など、地域

活動に参加しやすくなった。(加茂)

- ・自然体験学習の受入れなど、地域外の方を呼び込むことに取り組んだ。地域外の方を受け入れることで、地域住民が地域をより知る機会となった。(三瀬)
- ・小学校の「地域を学ぶ」という授業において、温泉の歴史や波乗り発祥の地の言われ、地区内の井戸の歴史など、地域の貴重な資源について、地区の先輩方や自治会職員が説明を行った。地域が長年守り続けてきた大切な資源や歴史に触れることで、子どもたちは故郷の魅力を再発見できた。(湯野浜)

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・民生児童委員や主任児童委員、振興会役員などの人選について、町内会長はとても苦慮している。また、振興会のボランティアも高齢化が進んでおり、後継者の育成及び人選が大きな課題になっている。
- ・高齢者の方々も働いており、平日日中の会議に参加者を集めることが難しい。
- ・少子高齢化に伴い振興会予算が減少し、追い打ちをかけるように諸物価の高騰が重なったことで、組織、事業のスリム化が急務になっている。
- ・メンバーの高齢化に伴い、地区内のサークル活動が低迷してきている。
- ・地域の担い手である若者が参加する機会や場が限られているため、地域活動への関心や関与が薄れてしまう傾向がある。また、高齢者の人口が増加しているにも関わらず、地域活動の中心として活躍する機会が限られており、その知識や経験が活かしきれていない。
- ・高齢者の買い物難民や医療機関への通院が困難になるケースが増えており、平日や休日に協力できる若い世代がいなかを検討中。なかなか具体的に進まない。

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・受け継がれてきた郷土食を伝承していくため、郷土料理教室を実施する計画がある。(田川)
- ・小学生の通学路を中心とした地域の除雪作業の仕組み作りに取り組みたい。(大山)
- ・隣接する四地区（大山・西郷・湯野浜・加茂）との合同防災訓練。(大山)

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・社会状況の変化とともに、自治組織の運営が難しくなっている現状がある。従来どおりの方法でなく新たな視点で取り組んでいくことも必要ではないか。
- ・地域活性化に繋がる優良事例について他県や他地域で実施されている取組みを情報提供していただきたい。
- ・DX の推進に取り組むたいと考えているものの、自治会と市の役割分担が明確でないため、進めにくい部分がある。自治体によっては、電子回覧板などのツールや環境を提供しており、自治会が独自に導入する必要がないケースもある。
- ・交通手段の乏しい高齢者の移動手段の確保が課題となっている。